

病防第28号  
令和5年（2023年）8月25日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第3号を公表しましたので送付します。

## 特 殊 報

令和5年度（2023年度）発生予察特殊報第3号  
令和5年（2023年）8月25日  
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 ナシハモグリダニ（仮称）
- 2 学 名 *Eriophyes* sp.
- 3 発生作物 ニホンナシ（バラ科）

#### 4 発生確認の経過

令和5年（2023年）4月、県内のナシ栽培園において、葉の両面がこぶ状に膨らむ「火ぶくれ症状」が発生している樹が発見された（図1）。症状を呈している部位の内部には、フシダニ科の寄生が認められた（図2）。

法政大学植物医科学センターに同定を依頼した結果、ナシハモグリダニ（仮称：*Eriophyes* sp.）と同定された。

本種の発生は当該ほ場の一部に限られ、現時点で他の園地に同様の症状は認められていない。

#### 5 国内の発生状況

ナシの葉に火ぶくれ症を発生させるフシダニ科の害虫として、ニホンナシハモグリダニ（仮称）が平成24年以降、神奈川県、長野県、栃木県、秋田県から、セイヨウナシハモグリダニ（仮称）が平成30年以降、秋田県及び山形県から病虫害発生予察特殊報が発表されている。これまで、両者は別種としてそれぞれ発表されてきたが、現在は同一種とみなされている。本種もこれらと同種と同定されたため、国内では7例目（ニホンナシでの発生は5例目）の発表となる。

#### 6 形態及び生態等の特徴

##### （1）形態

成虫の体長は約0.2mmで白色または黄褐色のうじ虫型、卵は球形半透明である。

##### （2）生態

生態は明らかにされていないが、ニホンナシで発生した既報（神奈川県の病虫害発生予察特殊報）によると、芽の中で越冬し、発芽とともに芽から脱出し、葉に火ぶくれを引き起こすと考えられている。本種はこの火ぶくれの内部に生息す

るが、暖かい時期に葉裏の開口部から外に出て新たな被害を及ぼすと推察されている。

### (3) 被害

葉の表裏両面にやや膨らむ火ぶくれ症状を呈し、被害が進むと黄色～暗褐色を呈するようになる。寄生密度が高いと寄生痕が重なりケロイド状になるが、早期落葉は見られない。また、長野県の病害虫発生予察特殊報では幼果の被害が報告されているが、本県の発生では果実の被害は確認されていない。

## 7 防除対策

(1) 火ぶくれ症状のある葉及び幼果は摘み取っては場外へ持ち出し埋却するなどして適切に処分する。

(2) 発生拡大を防ぐため、発生園地では穂木の採取を行わない。



図1 葉の被害（火ぶくれ症状）



図2 内部に寄生していた成虫

熊本県病害虫防除所  
(農業研究センター 生産環境研究所内)  
担当：清永、岡島  
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493